

令和5年度事業報告について

令和5年度は、オーケストラ・アンサンブル金沢設立35周年を記念した公演の他、定期会員拡大に向けたセレクト定期会員制度を創設した。自主事業においては、事業内容を拡充し、社会包摂をテーマに、シニア向け事業、障がい者向け事業を新たに実施した。

また、能登半島地震被災者への慰問公演により、音楽による被災地支援にも取り組んだ。

1 オーケストラ運営事業会計（公益目的事業会計1）

（ ）＝県外公演数（内数）

区 分		5年度実績	摘 要
1 オーケストラ運営事業			
自主公演	定期公演	17（3）公演	県内、東京、大阪、名古屋 県内、富山、福井、岐阜等 県内、東広島、鳥取
	特別公演	36（20）公演	
	音楽堂特別公演	7（2）公演	
	ファミリー公演・入門コンサート	1（0）公演	
	新人登竜門コンサート	1（0）公演	
	小 計	62（25）公演	
依頼公演	小・中学校公演	14（2）公演	県内、高岡 県内、富山、岐阜、長野等
	市町・企業等依頼公演	33（15）公演	
	CD等録音・収録依頼	0（0）公演	
	小 計	47（17）公演	
海外公演		0（0）公演	
		合 計	109（42）公演
小編成による室内楽公演		129（7）公演	
2	ジュニア・アマチュアオーケストラの育成振興事業	○ジュニア・オーケストラの技術指導等 振興事業 ・5月5日（祝）楽都音楽祭 ・11月5日（日）国民文化祭 ・3月24日（日）定期公演 ・3月31日（日）オーケストラの日	
3	その他、音楽文化を通じて地域振興に寄与する事業	○楽器技術講習会の開催 ・5月13日（土）輪島中学校 ・3月7日（木）県立音楽堂 ○オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団の育成 ・11月23日（祝）オペラ「禪」に出演 ・2月12日（祝）和洋の響に出演 ○能登半島地震被災者への慰問公演の実施	
	・楽器技術講習会		
	・合唱団の育成		
	・ボランティア公演実施		

令和5年度 オーケストラ・アンサンブル金沢の特徴的な事業

- (1) 北陸新人登竜門コンサート 声楽部門
5月21日(日) 石川県立音楽堂コンサートホール
- (2) いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2023への出演
4月29日(土祝)～5月5日(金祝)開催 石川県立音楽堂コンサートホール他
オーケストラ公演：7公演(オープニングコンサート1公演を含む。)
- (3) オーケストラ・アンサンブル金沢設立35周年記念県内縦断コンサート
オーケストラ・アンサンブル金沢設立35周年を記念し、県内19市町で公演
- (4) いしかわ百万石文化祭2023への出演
10月15日(日) 開会式
10月22日(日) 合唱の祭典
11月 3日(金祝) 音楽堂3 days
11月 5日(日) 音楽堂3 days
11月26日(日) 閉会式
- (5) 世界的アーティストとOEKとの共演
4月21日(金) 指揮：ジャン＝クロード・カサドシュ(フランス)
5月27日(土) トランペット：ラインホルト・フリードリヒ(ドイツ)
3月15日(金) 指揮：マルク・ミンコフスキ(フランス)

2 音楽堂自主事業会計(公益目的事業会計2)

石川県立音楽堂自主事業を3ホール合わせて21事業を実施予定

洋楽の部	邦楽の部	交流ホールの部
音楽堂リサイタルシリーズ (年間2回) ランチタイムコンサート (年間6回) 小中学生のためのコンサート(8月) ステージアートの世界(12月) 和洋の響(2月) 他5事業実施	萬斎からのメッセージ(8月) 山月記・名人伝(いしかわ百万石 文化祭 音楽堂3 days)(11月) 新春芸能玉手箱(1月) MANSAI CREATION BOX ～萬斎のおもちゃ箱～(2月) 子ども邦楽アンサンブル 他2事業実施	音楽堂フェスタ 〔親子で楽しめる伝統芸能 等の体験イベント(8月)〕 カルチャーナビ 〔クラシック音楽講座や 芸能講座 年間4回〕 障がい者支援ワークショップ& コンサート 〔障害のある児童生徒を対象 とした参加型イベント〕 他1事業実施
計 10事業	計 7事業	計 4事業

3 音楽堂管理会計(公益目的事業会計3 及び 収益事業会計)

石川県立音楽堂の管理運営(県から指定管理者に指定：令和5年4月1日～令和10年3月31日)

年間ホール利用	コンサートホール	238日	
(本番・練習)	邦楽ホール	195日	総入場者数192,293人
	交流ホール	252日	

4 当期収支について

【オーケストラ運営事業会計（公益目的事業会計1＋法人会計）】

文化庁の新型コロナウイルス感染症に関連する臨時的な補助金等による財源の確保や、自主公演の増加に伴う入場料収入の増加により、当期収支は大幅な黒字決算となった。

当期一般正味財産増減額：47,389,773円

【自主事業会計（公益目的事業会計2）】

文化庁の総合支援事業の採択に伴う補助金の増加や、県外での公演開催による公演料収入の増加により当期収支は黒字決算となった。

当期一般正味財産増減額：2,207,221円

【管理会計（公益目的事業会計3＋収益事業等会計）】

貸館利用の回復により、ホールの使用料収入や駐車場収入が増加したことにより、当期収支は黒字決算となった。

当期一般正味財産増減額：28,965,867円

【全体の収支】

3会計とも黒字決算となったため、事業団全体の当期収支は黒字決算となった。

当期一般正味財産増減額：78,562,861円（詳細は次頁以降参照）

5 収支相償について

新型コロナウイルスに関する補助金等の収入増加により、令和元年度から令和5年度にかけて、公益目的事業会計において黒字額が発生しており、公益認定基準のひとつである「収支相償」を満たしていない状況となっている。令和6年3月の理事会において、一部を特定費用準備資金に計上し、計画的に執行することとしており、残額の解消策については、現在検討しているところである。